



本弘寺別院

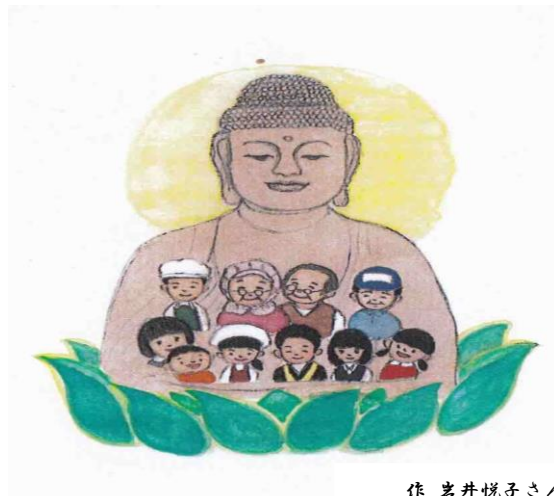
連日厳しい暑さが続いておりますが、皆様お変わりございませんでしょうか。

このたび、皆さんとお寺をつなぐコミュニケーションツールとして寺報を発行することになりました。お寺とは、まさしく檀信徒の皆さんをはじめとしたお寺に関わる人々のご縁によって成り立っている場です。

その場であるお寺づくりの基本とは「お寺に関わる人々のご縁」を温めて大きく育てていくことにあります。

寺報の名前を「和花(わっか)」と名付けました。和とは自分を無くし他人に合わせるのではなく、自分も他人も認め合うことです。お寺に集うとき私たちは、世間での役職や老若男女は一切関係なく仏さまの前に皆が平等です。そこに集う人と人が仏さまを中心に縁でつながる輪っかのようになり、和の花が咲きほこれとの願いがこめられています。

これを機縁に、お寺や仏教を身近なものに感じていただき、皆さん同志の交流のツールとしてお役立てできれば幸いです。



作 岩井悦子さん

門徒もの知り帳

お盆は「盂蘭盆経」というお経がもとになっている仏事です。このお経には、お釈迦様の弟子の目連尊者が餓鬼道に落ちて骨と皮だけになっている亡き母を救うために、母に食べ物を施すのではなく、他者にご馳走を振舞い施しなさいとお釈迦様の教えをうけ、母を浄土へ救うことができたという内容です。

この目連尊者の母親は、生前、子どもの幸せを願うばかりに貪欲な生活をしていました。その酬いで母親は地獄へ落ち餓鬼となってしまいました。餓鬼とは、不平不満で満足することを知らず、貪り苦しむ有り様と説かれます。

私にも子どもがいますので、このお母さんの気持ちに痛い程わかります。餓鬼道で苦しまねばならないほど子育てというのは厳しいものかと思うと同時に、こうして育ててくれた両親のご恩を感じずにおれません。

浄土真宗のお盆には特別な荘厳や習慣(迎え火・送り火等)がなく、特別な日だけ故人が帰って来たり送り返すという考えはありません。

お盆のころ(由来)を大切に、いつでもどこでも、仏さまとなって、はたらいてくださるご先祖、亡き方を偲び、仏法聴聞させていただきお盆をお迎えいたしましょう。

法要お知らせ 歓喜会 (お盆法要)

今年から、別院本堂にてお盆の法要を厳修いたします。お子様のご参加も大歓迎です!!

日時 8/15 (土) 10時～

子ども仏教

ブツダがせんせい

**いのちは、いちばん大切なもの
きみも、たくさんのいのちにささえられている**

ご飯を食べるとき、「いただきます」って必ずいうよね。「いただきます」は、食べ物として、たくさんの「いのち」をいただくことに、感謝することば。お肉、お魚は、もともとはみんな生き物だし、野菜やくだものも、みんな「いのち」があるから大きく育ちます。人間が生きていくために、毎日たくさんの「いのち」をもらっているのです。

すべての人や生き物は、みんなささえあって生きています。そして、「いのち」は、あなたに一回だけあたえられた、いちばん大切なもの。それを忘れずにいてください。

ある小学校の保護者が給食費を払っているのだから、いただきますと言わせないで欲しいと学校側に言ったそうです。きっとこの保護者の方は、今までお金を超えた生き方をなさってこなかったのでしょうか。お金を払っているのだから、〇〇して当たり前という考えは現代を象徴しているように思います。色々なことを損か得かで勘定してしまい、自分に都合の良い結果を追い求めてしまいがちです。当たり前など一つもない、お蔭さまでいっぱいと気付くと感動のある人生を送らせていただけたと思います。 坊守

活動報告

当寺は、相模原に本院があり、別院として活動しておりますが、近い将来、独立をしたいと考えています。(本弘寺という寺院名はそのままに) その第一段階として、役員を選出し、組織として活動していくことが必要となります。そこで、6月28日に第一回役員会を開催いたしました。この場をおかりして、このたび役員になってくださった方々をご紹介させていただきます。



左上から
早野誠さん(総代・中井町)、本吉和征さん(総代・小田原)、村田恵三郎さん(総代・菩提)、高島雅由(責任役員・坊守)、大野攻さん(責任役員・愛川町)、高島宣弘(代表役員・別院住職)、高島宣明(本院住職)、惟沙、十和子

お便り募集

こんな特集をしてほしい・近況ご報告・出産ご報告・簡単レシピなどなど、みなさんからのお便りメールをお待ちしております!!
よろしく願いいたします
☑ honkouji.wakka@gmail.com

あとがき

住職を勤めさせていただいている高島宣弘です。第1号の寺報「和花」を発行させて頂けたことで当寺院の新たな一歩を嬉しく思っています。

世間の常識は仏教の非常識、仏教の常識は世間の非常識。という言葉があるのですが、まさに仏教は私たちに新たな視点を与えてくれ、生きる活力を与えてくれます。そんなことを私は皆さんにお伝え出来ればと思っています。

また、皆さんとお話をさせて頂くと、仏教徒と言いながら私は仏教のこと何も知らなくて、という言葉をよく耳にしますが、漠然とは見聞きして知ってはいるが、明確なものを持っていらっしゃらないように私には見受けられます。しかしそれは無理からぬことでありまして、一言で仏教といいますが、各宗派や各地方によって考え方や作法も様々だからです。それを近所の方々や田舎の親類の方々に様々に言われるのですから何が正しくて何が間違っているのか分からないという事のように私は感じるのです。ですから、「和花」を通して仏事のこともみんなで少しずつ共有出来ればと思っています。

お寺というと大抵が何百年という歴史と伝統があります。しかしその歴史と伝統という常識に腰を据えてしまい社会を見ないお寺も少なくありません。お寺とは一体どのような役割があったのか、これからお寺は皆さんに何を提供出来るのか。そんなことを考えながら、私たちはこれから古くて新しいお寺を皆さんと一緒に作っていきたく願っています。

合掌

➡次回は秋のお彼岸ごろに発行いたします